

1. 治安情勢及び一般犯罪の傾向

- (1) イラク, シリア及びリビアの紛争地域に渡航したモロッコ国籍者は約1,600名に上り,うち約800名がこれらの地でISILに参加したと言われていることからモロッコ当局はモロッコ人帰還兵による国内でのテロの実施を警戒しています。このような状況を受け,2014年11月以降,空港等の主要施設周辺においては,警察に加え,軍もテロ警戒任務に就いています。
- (2) 2015年11月13日に発生したパリ連続テロ事件を踏まえ,モロッコ当局は更に警戒監視態勢を強化し,特に外交団,観光スポット及び国境等の警戒を強めています。また,2016年3月22日に発生したブリュッセルにおけるテロ事件を踏まえ,国内の各空港における警戒監視を更に強化しています。
モロッコ当局によるテロ細胞の摘発は引き続き行われていますが,当国におけるテロ細胞の活動は戦闘員のリクルートなどISILに対する支援活動のみならず,実際にモロッコ国内でのテロの実施を企図したものや,外国人戦闘員や未成年からなるテロ細胞も摘発されており,その戦略は多様化してきています。
また,本年1月27日に摘発されたテロ細胞からは夜間赤外線照準器付短銃1丁と拳銃7丁を含む火器等が押収されています。
- (3) 金銭目当ての犯罪は引き続き発生しています。以前は刃物を見せて金品を脅し取る事案が主流でしたが,最近では実際に凶器で怪我を負わせ,金品を奪う事案が増加傾向にあるため注意が必要です。

2. 殺人・強盗等凶悪犯罪の事例

(1) 強盗

1月22日(日),正午過ぎ,被害者がラバト市ハイ・リアド地区のアナキル大通り付近の路上で携帯電話で会話していた際,モロッコ人男性と思われる者2名が被害者の後方から襲撃し,携帯電話の強盗を試みた。被害者は当初,抵抗を試みたが,加害者らが刃渡り30～40センチの刃物を所持していることを確認し,その場で抵抗を諦め,携帯電話を側方に投棄した。加害者らは携帯電話を奪取し,そのまま逃走した。被害者に怪我等はなかった。その後,加害者1名は警察により逮捕され,強盗に遭った携帯電話は警察から無傷で返却された。

(2) 殺人

邦人被害の事件の発生は認知していません。

(3) 強姦

邦人被害の事件の発生は認知していません。

3. テロ・爆弾事件発生状況

管轄内における当該事件の発生は認知していません。

4. 誘拐・脅迫事件発生状況

邦人被害の事件の発生は認知していません。

5. 対日感情

対日感情は一般的に良好であり,特段の変化は見られません。

6. 日本企業の安全に係わる諸問題

関連情報はありません。